

Sunshine Letter

Connect

Vol. 02

2025
OCTOBER

堀江愛利

巻頭インタビュー

英語がつかないだ、私の未来

「未来の可能性のために
言葉を大切にしたい」

特集

英語教育における
AI活用の「今」と「これから」



INTERVIEW

— 英語がつないだ、私の未来

未来の可能性のために 言葉を大切にしたい

起業家
ほり え あ り
堀江 愛利

Profile

広島県出身。カリフォルニア州立大学を経て米IBM入社。2013年、米シリコンバレーで女性起業家向けの合宿型育成プログラム「Women's Startup Lab」を創業。22年に日本に一般社団法人を設立し、日本の女性起業家が活躍できる環境づくりの取り組みをスタート。米テレビ局CNNの「10人のビジョナリーウーマン」に選出されるなど、その活動は高く評価されている。

高校時代に留学を決意し、大学進学・就職を経て、女性起業家を支援する「Women's Startup Lab」(以下、WSLab)を創業した堀江愛利さん。テクノロジー分野で起業を目指す女性をサポートする活動により、世界約50カ国から起業家が集まり、これまでに2万人の起業家を支援してきました。また、独自のシリコンバレープログラムでは250名以上の起業家が活躍しています。堀江さん自身が思い切って新しい世界に飛び込み、人との出会いを通じて道を切り開いてきた経験、そして今も大切にしていることについて伺いました。

.....

— 高校生のとき、17歳でアメリカに留学されました。もともと海外に高い関心があったのですか？

「いいえ、高校時代はバレーボールに熱中していました。1年のうち364日は練習漬けで、英語の成績も特別よくなかったと思います。でもある日、コーチが辞めたことでバレー部が突然解散になってしまっただけで、これまで打ち込んでいたものが、ブツンと途切れてしまったんですね。そんなとき英語の先生が、『応募書が一枚余っているから応募してみたら？ 明日が締め切りだけど』と、留学プログラムを紹介してくれたんです。留学など考えたこともなかったですし、先生も、まさか合格するとは思っていなかったかもしれませんが、私にとってはひとつのチャンスをもたらえた瞬間でした。」

— 打ち込んでいたものがなくなったと同時に、新たな道が開かれたのですね。

「そうですね。でも、物事はそう簡単には進みませんでした。選抜会場に行ったら、TOEFLテストが待っていました。何がTOEFLかも知らず英語の聞き取りさえできないため、混乱のまま終わりました。点数があまりに低かったため、『体調が悪かったんですか？』と聞かれたほど。東京での最終面接の英語の質問にもまともに答えられませんでした。一生懸命やるエネルギーはあったと思います。そして結果として選抜されたのですが、その理由を聞くと、『堀江さんは、英語ができる方ではなかった。でも、この数年、優等生よりも間

違いを恐れない学生ほど留学後に成長して帰ってくるということがわかり、あなたの伝えようとする強い意志、間違いを恐れない姿勢を評価しました。現地に行ってしっかり勉強してくださいね」と言われました。」

——成績だけでは計れない「可能性」が認められたのですね。アメリカでの学校生活はいかがでしたか？

「毎日が驚きの連続でした。アメリカの高校は学生が主体となる年間イベントが盛んで、バレンタインやサンクスギビング、パジャマで登校する『パジャマデー』など目白押し。みんな生き生きとして、本当に楽しい経験ばかりでした。」

最初は英語ができないので、周りの生徒に“I’m from Japan. I don’t speak English. Please help me.”とくり返し話しかけていました。先生に特別に授業をしてもらうこともありました。今思えば図々しかったかもしれませんが、成績が悪ければ日本に送り返されてしまうと思い込んでいたので必死でした。

学校の開放的な雰囲気のおかげかもしれませんが、周りの人たちはがんばっている人にとっても優しく、世話を焼いてくれました。何より、『あなたと友達になりたい』『あなたたちの文化を知りたい』という気持ちが伝わったから、助けてくれたのだと思います。英語ができるようになることだけを



アメリカで開催された起業家向けのイベント・SXSW V2Vで、スピーチする堀江さん

目指すのではなく、英語ができなくても話したくなる人になるよう、努力をしました。そうすれば話す機会も増え、自然と上達すると思ったからです。」

——アメリカでの1年間の留学、大学進学を経て、そのまま現地で働くことに不安はありませんでしたか？

「もちろん不安はありました。大学4年のとき、『成績がよくても、現地の人に比べて英語力が劣る自分には、それ以上の強みが必要だ』と思ったんです。だから、『私はどんな価値を提供できるだろうか』と必死に考えました。不安なときって、自分にできることとできないことを見極めるのが大事なんです

よね。自分でコントロールできないことを心配しても仕方がない。できることをやるしかない。

そしてがんばるためには、『自分で決める』ことが大切です。母からもずっと『自分で考えて、自分で決めなさい。人の意見や社会の価値観で決めると、あとで後悔するから』と言われてきました。」

——テクノロジー分野で起業する女性を支援することにした、その背景を教えてください。

「チャンスがあってIBMに就職し、テクノロジーの最先端であるシリコンバレーで働くことができました。出産を機に専業主婦になりましたが、育児関連の仕組みがあまりにアナログで驚いたんです。その後、教育系のベンチャーを立ち上げました。でも当時はまだ男性社会で、女性の声が今よりずっと通りにくかったですし、育児に関わる男性も少なかった分、ニーズを理解してもらいにくい状況もありました。

そんななか、起業家の困難や孤独を体験し、女性特有の壁にもぶつかったことで、同じような女性起業家を支援したいと思ったのがWSLabの原点です。私自身、さまざまな人からチャンスをもらって今があります。そのチャンスを今度は誰かに渡したいと思いました。40歳での起業でしたが、大きな反響があり、必要としている人が多いことを実感しました。」

——2022年には、日本からのプロジェクトの依頼をきっかけに法人も設立されました。高校生向けの起業支援プログラムもあるそうですが、日本の若い世代に向けてメッセージをお願いします。

「日本では、どうしても『高い完成度』を求められる傾向があります。『すごい人』や『極めた人』でなければチャンスはない、と思い込んでいる人もいます。でも、やりたいことがあれば、



チャンスはない、と思い込んでいる人もいます。でも、やりたいことがあれば、

2022年には、起業家のロールモデルとして「バービー」人形に！



始めてしまえば大丈夫。実際、英語もできず、優等生でもなかった私にも動くことでチャンスが与えられたのですから。

そして、これからの日本を担う若い世代に必要なのは、意見を持ち、しっかり『発言すること』だと思います。議論や発言を行うことで考える力がつくとともに、相手にもいろいろな意見があることを体感できます。それは他者への理解と思いやり、多様性に対する感性を育てることにつながる、重要なスキルだと思います。日本では、どうしても相手に合わせたり空気を読んだりといった同調性を重んじる傾向があり、多様性が必要と言いつつもそれを育てる場や環境が限られているのではと思います。若い世代が自由に議論できる環境を増やすことが、社会の活力につながると思います。」

——最後に、堀江さんにとって「つながり」とは？

「それはもう、可能性そのものです。私は人とのつながりによってチャンスを与えられてきました。相手は軽い気持ちで助けてくれたのかもしれませんが、私にとっては一生忘れられないものになったという経験がたくさんあります。そしてつながりを作るために大切なのが、やはり『言葉』。それは日本語でも英語でも同じことです。

子どもにもよく話すのは、『言葉にはパワーがある』ということ。たったひと言が相手の自信になることもあれば、傷つけることもある。だから、もし元気がない子がいたら、小さなひと言でいいから声をかけなさいと伝えています。自分の発する言葉を大切にすることが、人とのつながりを生み出す第一歩だと思います。」



WSLabが支援した起業家たちと

4日間の「起業家マインドセットリーダーシップ合宿」の様子

英語教育におけるAI活用の「今」と「これから」

大手IT企業も参画し、注目が高まる生成AI。学校現場でも利活用が進む一方、安全性への懸念の声も聞かれます。今号では、そんな、「使いたいけれど、少し不安」な「生成AI」との向き合い方に着目。文部科学省外国語教育推進室の田井室長に、英語教育での利活用推進の背景や今後の展望を伺いました。また、小中学校での先進的なAI活用事例もご紹介。適切かつ効果的な利活用のポイントを、理論と実践の両面から探ります。

これまでの英語教育におけるAIに関する事業では、AIの効果的な活用につながる事例が報告されています。

教えてくれたのは…

田井 祐子 さん

文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 外国語教育推進室長



読者参加型

アンケート企画

先生のホンネレポート

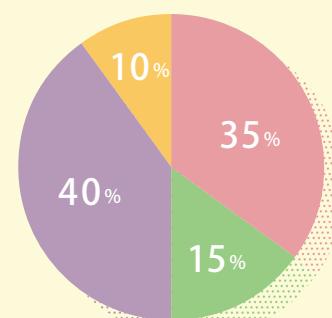
生成AI活用の実際は？

前号（Vol.1）で実施したアンケート「生成AI、どのくらい使っていますか？」には、全国各地の先生方から回答をいただきました。結果を見ると「sometimes」や「often」を含めると、日常的に生成AIを活用している先生が9割にのぼることがわかりました。

活用の場面としては「教材作成（テストや問題づくり）」が最も多く、続いて「校務（議事録や文書作成など）」「授業中の活用（発音チェックやライティング添削など）」と、校務から授業まで幅広いシーンで利用が進んでいることが明らかになりました。一方で、「使っていない」という声もあり、「どのように授業に取り入れるべきか」「安全で効果的な使い方は何か」といった課題や不安もあるようです。

質問 1

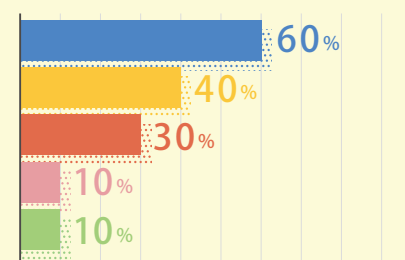
「生成AI」を使っている頻度について最も当てはまるものを教えてください。



usually…35% often…15%
sometimes…40% never…10%

質問 2

次のうち「生成AI」を使っている場면을教えてください。（複数回答可）



■ 教材作成 ■ 校務
■ 授業中 ■ その他
■ 使っていない

英語教育にAI・ICTが求められる理由

一定の英語力を有する中学生・高校生の割合は向上している一方、日本人の英語力が社会の期待と乖離している現状があります。その要因はさまざま考えられますが、初等中等教育段階においては、英語を使う機会の少なさや学ぶ動機付けの弱さなどがあると考えています。文部科学省が実施した令和6年度英語教育実施状況調査では、生徒の英語力向上には「生徒の英語による言語活動」や「教師の英語使用」などが影響を与えていること、これらの要素を充実させるためには、「英語の授業

におけるICTの活用」が重要であることが明らかになりました。その他の調査・分析からもICT活用が生徒の英語力に効果的であるとの結果も見出されています。

このような中、生成AIを含むAIを英語教育に効果的に活用することにより、間違いを恐れず、恥ずかしがらずに何度も会話練習ができたり、英文添削等で即時にフィードバックをもらえたり、さらに自宅でも気軽に学習ができるなど、練習量の増加や動機付けの強化が期待されています。

先生たちの活用方法

ALTでも文法などを間違ふことがあるので、正確であるか不安なとき、あいまいなときなどに確かめるために使います。

（小学校（担任）50代 東京都）

活動に合った目的や場面、状況等の例を挙げてもらう機能としても使っています。例えば、「スピーチをするのってどんなとき？」と聞くと、「多くの人に自分のことを知ってもらおうとき」「コンテストのとき」など。答えを参考に生徒の実態に合わせた活動のゴールを設定したこともありました。

（中学校 20代 千葉県）

授業で使えそうなビジュアルカードをイメージ通りに作りたいとき、生成AI機能でイメージに近づくまでくり返し作っています。イメージになかなか近づかないこともあります、それが意外に面白かったりします（笑）。

（中学校 20代 埼玉県）

文法を指定して例文を作成したり、その例文をテスト用に並べ替えたり、空欄補充の問題にしたり、単語や文法ごとのニュアンスの違いなどを調べたりしています。

（中学校 20代 千葉県）

授業中はAIを活用した対話練習や例文の生成を行い、授業準備の際にはワークシートの作成などに利用しています。

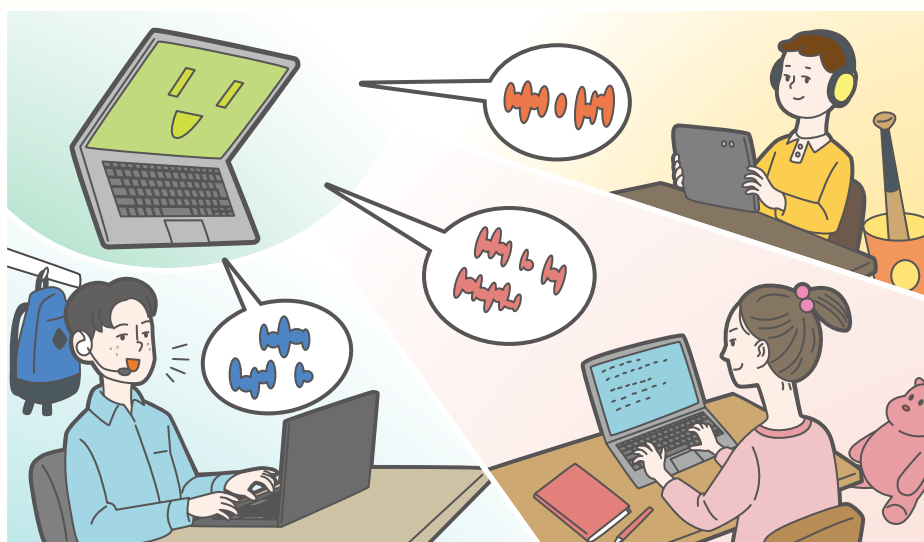
（中学校 30代 埼玉県）

英語教育でのAIの活用方法について

令和6年度に実施した実証事業や学校現場での実践においては、対人の練習に自信のない児童生徒の練習相手としてAIを活用した事例や、児童生徒がペアでやり取りする前にAIを使って発音練習やリハーサルを行うことで、語彙や表現の習得、自信の醸成、即興力の向上につながった事例等があり、児童生徒の話して

伝えたり、伝え合ったりする力の強化に向けた活用が期待されています。

また、生徒が自身の力で英文を書いた後、グループ内でAIの添削結果を参考に修正案を検討する等、協働的な学びと組み合わせるAIを活用する事例もあり、書いて表現したり伝え合ったりする力の向上に向けた活用も進んでいるところです。



AIを積極的に活用することで、練習量の増加や動機付けの強化が期待されています。

英語教育でのAI活用における留意点について

AIの活用に当たっては、文部科学省が昨年12月に公表した「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」を参照し、利活用に当たっての基本的な考え方や押さえるべきポイントをぜひ確認いただきたいです。

同ガイドラインでは、学校現場で生成AIを利活用する際の基本的な考え方として、「学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用すべきであり、生成AIを利活用することが目的であってはならない」と示しています。

英語の授業でAIを活用する際には、ぜひ学習指導

要領に示す目標に常に立ち返っていただいた上でAIを活用する目的を明確にし、効果的に活用していただきたいと考えています。

また令和6年度の実証事業を通して、教師が一人ひとりの学習状況を適切に把握して個別に声掛けをすることで、児童生徒のつまづきを指導につなげ、モチベーションを持続させることが重要であることもわかってきました。

現在実施している「AIの活用による英語教育強化事業」では、46団体・約300校においてさまざまな実践に取り組まれているところです。それらの結果を踏まえながら、今後AIの効果的な活用方法や留意点等を具体的に示していきたいと考えています。

教師を支える支援・研修

文部科学省では、「AIの活用による英語教育強化事業」において、AI活用の実践を行うリーダーの方々に向けた勉強会を実施しています。AI導入時における英語指導のポイントや、学校におけるAI活用に関する留意点など、これまでに開催された勉強会の様子は「AIの活用による英語教育強化事業プラットフォームサイト」で公開していますので、各教育委員会や学校における研修などにもご活用いただければと思います。

また、令和6年度は「デジタル技術を活用した発信力強化事業」を通じて7つの自治体・企業にAIを活用した英語教育の実践に取り組んでいただき、その成果などをYouTubeチャンネルmextchannel「外国語教育はこう変わる！」で配信しています。児童生徒の英語力や関心・意欲の向上等につながる事例や指導上の留意事項をまとめているので、こちらもぜひご覧いただければと思います。



文部科学省
「AIの活用による英語教育強化事業プラットフォームサイト」
AIを活用した英語教育に関する勉強会の情報や、採択団体における授業等での実践・知見を発信している。

AI活用事例

令和6年度
デジタル技術を活用した
発信力強化事業

【大阪府教育委員会】

YouTubeチャンネルmextchannel
「外国語教育はこう変わる！」

結びに

－生成AIの発展と英語を学ぶ意義－

現行の学習指導要領では、英語はコミュニケーションを図る（小学校においては、コミュニケーションを図る素地や基礎となる）資質・能力の育成を目標としています。文化の理解や相手への配慮をしながら、考えや気持ちを伝え合う力や態度を育成することが重要であるものと考えており、こうした考え方は日本社会の内なるグローバル化が進展する今後も大切であるものと考えています。

一方、生成AIなど技術が飛躍的に発展し、

手軽に質の高い翻訳や通訳も可能となっています。生成AIの活用が当たり前となる社会で、子どもたちに一層意欲を持って英語を学んでもらうためには、英語を学ぶ意義を再整理することが必要です。

次期学習指導要領に向けた中央教育審議会への諮問では、AIの活用を含めたこれからの外国語教育や、外国語を学ぶ意義についても問われており、現在議論が進められているところです。

小学校外国語科での 生成AI活用、 その一歩



● Profile

喜多 千鶴

佐賀県白石町立北明小学校教頭
平成27年度英語教育推進リーダー中央研修終了。白石町教育委員会指導主事を経て令和7年度より現職。「AI英語活用リーダー」として、英語専科教員とともに授業に関わっている。

AIキャラクターとの会話で 生まれる個別最適な学び

本町で活用しているAIアプリには、①AIキャラクターとの双方向のやり取り ②児童の発話内容の判定とスコアリング ③学習指導要領解説に準拠した場面でのAIとのロールプレイなどの機能があります。これらを活用し、以下のような取組を行っています。

小学生の外国語学習は、まず「音」に慣れ親しむことが重要です。「音声を聞いて意味を推測しながら理解し、その表現を使って自分の考えや気持ちを伝え、身に付ける」という学習プロセスをより促進するため、AIキャラクター「モニカちゃん」との会話練習を取り入れています。

AI活用の最大の利点は、児童が自分のペースで何度でも練習ができることです。最初に友だちとのやり取りである程度表現に慣れ親しんだあと、モニカちゃんとの会話に挑戦します(図1)。児童は楽しそうに取り組んでおり、人前で話すこ

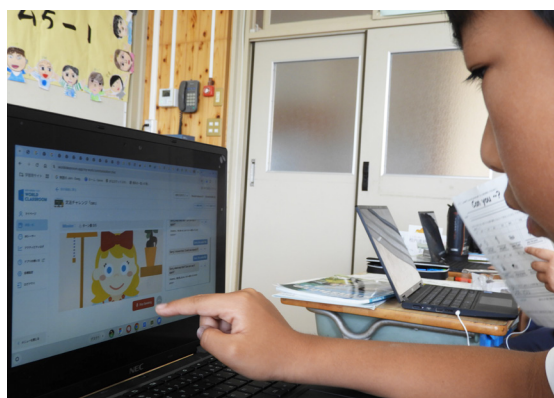


図1: モニカちゃんとの会話の様子

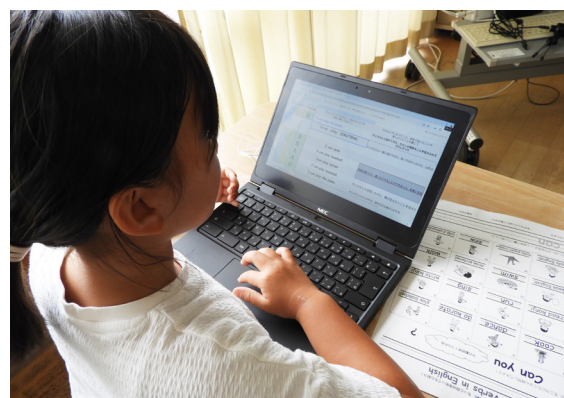


図2: 音声で何度も慣れ親しんだ表現を使って英文を入力している様子

Introduction

白石町は、今年度、文部科学省「AIの活用による英語教育強化事業」に採択されました。町内の全小中学校をモデル校とし、小学校高学年では、HelloWorld株式会社の提供するAIアプリ「WORLD CLASSROOM」、中学校では同アプリに加え、ChatGPT及びGeminiを外国語科の授業に導入しています。小学校では、特に「話すこと」の言語活動の量を大きく増やし、その質を抜本的に改善するためのAI活用について実証研究を行っています。

とが苦手な児童でも、抵抗なく英語を話す様子が見られます。「回数を重ねるごとに、英語を話せるようになった!」「自分の好きなことをモニカちゃんに伝えられた!」このような達成感が、児童の学習意欲を大きく向上させているようです。

また、アプリでは、モニカちゃんの言葉が文字でも表示されます。これは、幼い子どもが絵本を読み聞かせてもらいながら自然と言葉を覚えるのと似ています。この文字表示が、音声から文字への結び付きにつながります。また、児童の「相手のことを知りたい」という意欲に基づいて、見て意味のわかる語句や表現をたよりに集中してリスニングを行うことを促します。

その後の書く活動では、例文を参考に自分の考えや気持ちをスプレッドシートに入力し(図2)、書き写しをします。それまでに、モニカちゃんとのやり取りの中で何度も聞いたり話したりして慣れ親しんだ内容なので、児童はスムーズに行うことができます。

音読判定とスコアリング機能を 活用した音読活動

小学生にとって、英文を読むことは非常にハードルが高い活動です。まずは十分に音声で慣れ親しんだうえで、結果として児童が「あれ? なんか英語が読める!」と感じることのできる授業デザインが必要です。そこで、読む活動をスモールステップで組み立てています。まず、足がかりとして「Who am I?」クイズを実施します。教師が英語でとある人物の「できること」を紹介し、イラストと英文を見せ、その人物が誰かを当てるゲームです。例えば、「I can play shogi well. Who am I?」と言いながら将棋のイラストと英文を見せると、児童はすぐに「藤井聡太さん!」と答えます。他にも、担任の先生を紹介したり、ゲームキャラクターを使って「I am a video game hero. I can jump high.」と話したりすることで、児童は楽しみながらさまざまな語句や表現の音声と文字に出合い、慣れ親しむことができます。

このような活動を複数回行ったのちに、AIアプリで音読活動を行います(図3)。アプリのスコアリング機能では、練習に取り組んだ回数やスコアを記録できるので、音読をくり返すなかで少しずつ発音のスコアが上がっていくことを児童も実感できます。このような小さな成功体験を積み重ねながら、「読むこと」に自然に慣れ親しませます。



図3: 何度も音読活動に取り組んでいる様子

これからの取組

本町では今後、HelloWorld株式会社の協力のもと、「本物の体験」として、海外の小学生とのオンライン交流を実施する予定です。英語は遠く離れたところに住む人とも心を通わせられるツールの一つだと実感することで、学びはさらに深まるでしょう。ただし、AIを含むICTは、あくまでも手段です。「デジタルの力でリアルな学びを支える」AI活用の在り方について、今後も検証を重ねていきたいと思っています。

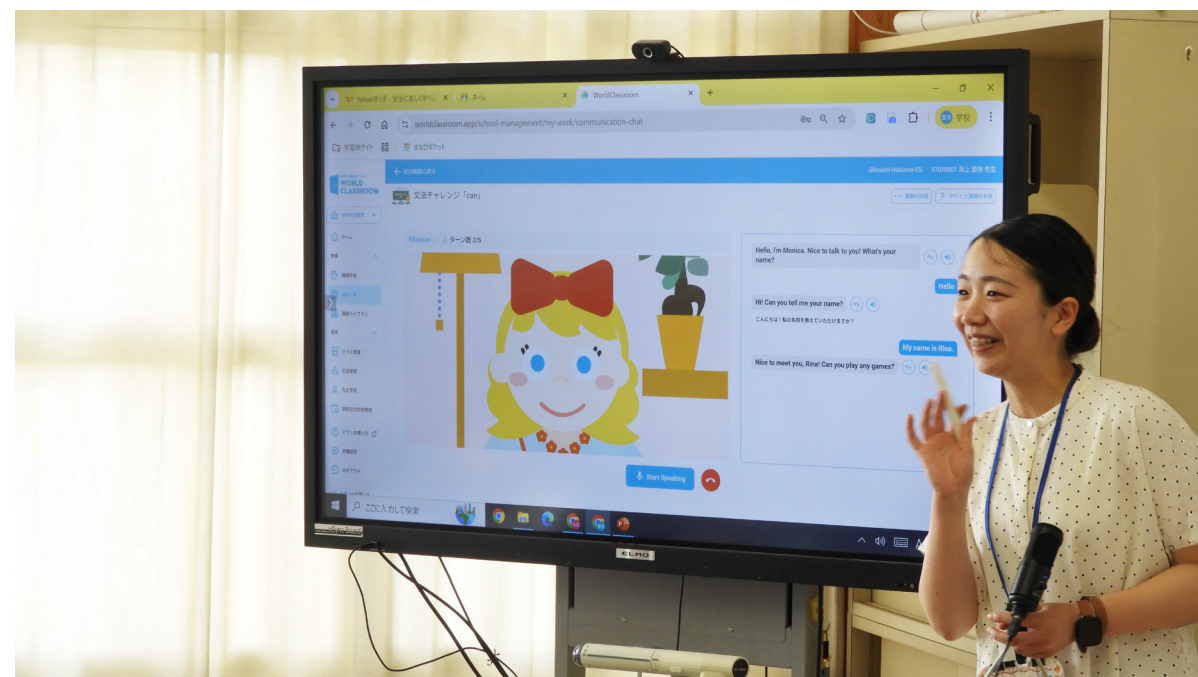


図4: モニカちゃんとの会話について指導する専科教員

生成AI「も」 学びのパートナーに なるのか？



● Profile

たかぎ ともき
高木 智記

大阪府枚方市立長尾中学校（首席）
関西大学大学院外国語教育学研究科修了。
大阪府中学校英語教育研究会事務局長
として、府内外で英語教育、生成AIの利活用
の研修講師を務める。産官学民連携による
枚方英語プレゼンテーション大会創設者。

枚方市とICT

本市では、令和3年に「枚方版 ICT教育モデル」の初版を策定しました。これは、1人1台端末を効果的に活用して、学習指導要領に示された「未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力」を育成するために、本市が目指す教育の方向性を明確にしたものです。実施にあたっては、本モデルに示された「C」から始まる5つの視点（図1）を大切にしています。

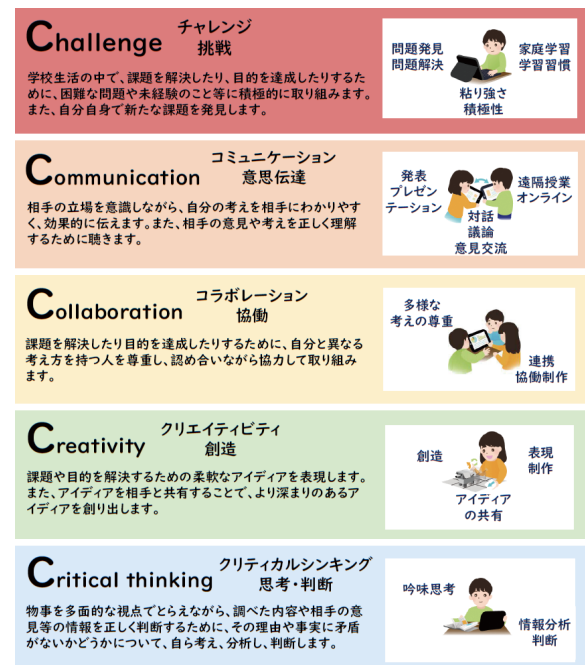


図1：枚方版ICT教育モデル「C」から始まる5つの視点

Introduction

2022年11月、OpenAI社がChatGPTを発表しました。その直後、関西大学の水本篤教授が外国語教育での応用可能性を示唆され、筆者も中学校での利用を検討し始めました。また、本校は、文部科学省により令和5年度「生成AIパイロット校」に指定、令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」に採択され、生成AIの導入と効果的な活用を進めてきました。生成AIは、その使い方次第で、中学生の外国語学習にプラスにもマイナスにも働くことを日々感じています。

生成AIパイロット校として

生成AIパイロット校に指定されて最初に行ったことは、教職員、生徒、保護者への説明でした。当時はChatGPTが発表されて1年足らずであり、特に教職員や保護者の間では、生成AIの導入に対しての不安が大きかったからです。保護者向け説明会ののち、保護者の同意が得られた2、3年の生徒の端末にChatGPTのアプリをインストールし、本格的な実践を開始しました。指定からわずか半年の間に、公開研究授業、3回の先進校視察、成果報告会が行われました。いずれも多くのテレビや新聞の取材等があり、注目度の高まりを感じました。

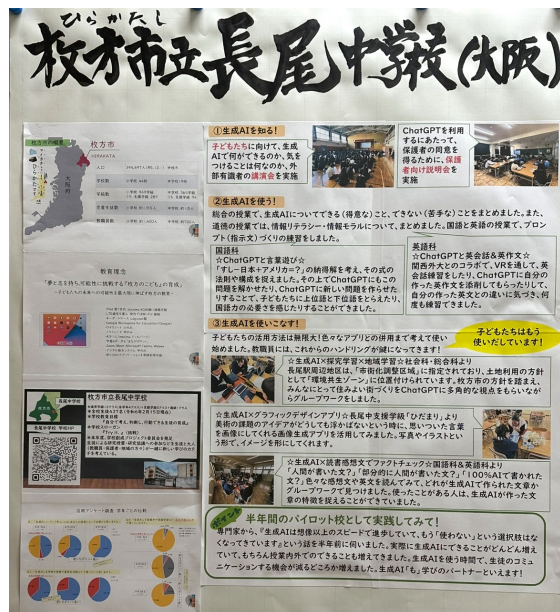


図2：令和5年度生成AIパイロット校成果報告会のポスター発表資料

AIの活用による 英語教育強化事業

本市は、文部科学省 令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」に採択され、本校を含む複数の小・中学校で実証を行っています。本市の実施内容は「話す」で、現在中学2年生を対象に、生成AIとの会話練習を実践しています。教室内で30人が一斉に話すので、マイクやイヤホンを使用しても他の生徒の発話を拾ってしまい、入力がうまく処理されないこともありましたが、**空き教室を利用したリ家庭学習として課題を出したりするなど、活用環境を工夫することで改善しました。**なお、会話の内容は文字として記録されるため、あとでふり返ることができます。

教材づくりにおける 生成AIの活用

既に多くのメディアで、生成AIを活用した教材の作り方が紹介されています。筆者は主に3つの方法で活用しています。

1 リスニングスクリプトの作成

生成AIで会話文を作成し、生徒の前でALTと実際に会話して聞かせています。作成したスクリプトをさらにアレンジし、長さや難易度を調整することも可能です。

2 リテリングモデルの作成

英語科教員が作成した英文を生成AIに読み込ませ、リテリングモデルを作成しています。単語のレベルや使用する文法など、プロンプト（指示文）を詳細に設定しています。

〈プロンプト入力時のコツ〉

①既習単語を使って ②会話文にして ③文書を少し長く（短く）してなど、基本的には全て英語で入力しています。

3 ピクチャーディスクリイビング用画像の作成

「場面や状況」をプロンプトで指定すると、それに合う画像を簡単に生成できます。その生成された画像を使って、生徒にピクチャーディスクリイビングをさせています。

生成AIを 使うことの是非

本校では、3年前に学校創成プロジェクト委員会を創設しました。学校生活の充実や向上のために活動する委員の生徒たちには、授業に対しての意見を述べてもらい、教職員の授業改善の一助としています。

本委員会で、英語学習で生成AIを活用することの是非を考えたところ、「当初は、何にでも生成AIを使っていたが、生成AIを使用するかどうか、状況によって考えるようになった。」と答えた生徒が多数いました。また、ある生徒が「英文を生成AIで作って見たらとてもよいものができました。でも、それって自分の力なのかな？」とみんなに投げかけました。筆者が「自分で作ったものやろ？ 何回も生成AIに入力して添削してもらっていたよね？」と言うと、こう答えました。「確かにプロンプトは自分で考えました。でも、同じような課題がテストで出たら、同じような英文が書けるとは思えません。」これは、「**生成AI「だけ」では自分の力はつけない**」と生徒がおのずと気づいたがゆえの発言であり、指導者としてうれしく思いました。

本校は、今年度は文部科学省が進めるリーディングDXスクール事業の採択を受けています。生成AIの活用だけでなく、1人1台端末の使い方についても、学校創成プロジェクト委員会とともに、生徒たち自身で使用場面や使い方を判断できる力がつくようにサポートしていきたいと考えています。



図3：学校創成プロジェクト委員会の様子

誰もが輝ける英語の授業づくり

～特別支援の観点から～

Vol.2

子どもたちが抱く『歯がゆさ』

中学2年生105名に、英語の読み書きの力と英語の学力との関連を調査するために、二つのテストを実施しました。一つは英語標準テスト、もう一つは英単語の読みとつづりの習得度を測るためのテスト(URAWSS-English)です。後者は次の問題で構成されています。

- ①-1: 書かれた単語について、その意味(日本語)を答える問題
- ①-2: ①-1と同じ単語について、その単語の発音を聞いてから答える問題
- ②-1: 日本語に当てはまる単語のつづりを書く問題
- ②-2: ②-1と同じ単語について、カナ書きで答えることを許容する問題

①では音声の有無、②ではカナ書きの許容、それぞれが正解率に与える影響を調べることが目的です。

下の表は、標準テストの偏差値ごとに、正解数の差の平均を一覧にしたものです。標準テストで偏差値が低かった生徒ほどその差が大きいことがわかります。つまり、「文字を音にできない」「意味がわかっている単語を識別できない」「発音のわかる単語をつづれない」という歯がゆさを感じている生徒たちがいるのです。

評価は公平、平等でなければなりません。しかし、問題の出し方や評価の方法を工夫すれば、救われる生徒もいると思います。先生が「あなたは本当はわかっているんだね。」と声がけをするだけでも、歯がゆさが和らぐ生徒もいると思うのです。

表: 標準テストの偏差値ごとのURAWSS正解数の差

URAWSS 偏差値	英単語→日本語 読み上げ有無正解数差平均	日本語→英単語 カナ書き許可有無正解数差平均
30-39	6.6	8.4
40-49	2.4	4.7
50-59	1.2	4.0
60-69	0.4	2.1
70-79	0.2	0.9



いいじま むつみ
飯島 睦美

群馬大学 理事・副学長(教育・評価担当)

英国パーミンガム大学修士。
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位満期取得退学。

column

隣の英語ビート

Vol.2

仕事で英語を活用するさまざまな職業の方に、「英語の学び方」や「英語を身につけてよかったこと」をインタビューする本コーナー。第2回は、音楽ライターとして国内外のアーティストの記事を執筆している松永良平さんにお話を伺いました。

生きた英語を使うことが
より深い理解につながる

大学時代に出会った友人たちと自主制作の音楽雑誌『リズム&ペンシル』を立ち上げた松永さん。同雑誌でアメリカのシンガーソングライター、ジョナサン・リッチマンを特集したのが、初の海外アーティスト取材でした。

「当時はインターネットが普及していなかったので、レコード会社に『あなたを特集したい。来日したら取材させてほしい』と手紙を送ったんです。半年後に返事が届き、来日ツアーに取材できることになりました。」

初の英語取材にもかかわらず、インタビューは成功。時間はかかったものの、無事に雑誌を完成させることができました。

「本格的な会話のやり取りの経験はないものの、英語は得意だったんです。中高時代に通っていた塾の先生が単語暗記よりも文法理解を重視する方で、ここがわかっていれば英語は理解できるだろうという『肝』の部分を教えてくれていました。そのおかげで、なんとか乗り切れました。ただ、今その録音を聞いたら、恥ずかしくて逃げ出すと思いますが(笑)。」

その後も海外アーティストの取材や来日ツアーのアテンド、勤務するレコード店での海外買い付けなど、英語を使う機会が増えていきます。

「慣れないうちは頭の中で一度、英語から日本語に翻訳しますよね。でも慣れてくると英語のまま、テンポを



イラスト: 大崎奈都子

まつながりょうへい
松永良平さん(音楽ライター)

1968年熊本県生まれ。音楽ライター(リズム&ペンシル)。音楽雑誌の自主制作をきっかけに執筆活動を開始。現在はレコード店勤務のかたわら執筆活動を行う。著書に『ぼくの平成パンツ・ソックス・シューズ・ソングブック』、訳書に『ブライアン・ウィルソン自伝』など。

崩さず、ニュアンスごと理解できるようになります。今は通訳付きの取材も多くなりましたが、自分自身が会話のニュアンスをつかめるかどうかは、コミュニケーションを取るうえでも、記事を書くうえでも、重要だと思っています。」

現在は取材記事の執筆に加え、書籍の翻訳や音楽映画の字幕監修も手がける松永さんに、英語上達のコツを聞いてみました。

「いちばんは友達を作ることですが、洋楽好きなら歌詞や英語のインタビューを自分で訳してみるのもおすすめです、よい訓練になります。映画やドラマで『生きた英語』を聞くことも大切。AI翻訳やアプリは便利ですが、文学や音楽のように、感情の機微を表す分野には、人であれば表現できない余地があると思っています。」



読者参加型

アンケート企画

先生のホンネレポート

学校現場での課題や工夫など、英語教育に携わる先生方の

ホンネを共有するアンケート企画をお届けします。

▶ 次号の特集テーマは「**言語活動の充実～外国語指導助手(ALT)とつくる授業～**」！ そこで……

今回のアンケートテーマはこちら！
どうしていますか？ ALTとの連携

連携のコツやお悩みなど、先生方の**ホンネ**をお聞かせください！
回答は匿名で集計し、次号に掲載させていただくことがあります。

▶ アンケートにご協力ください！



1分で回答完了！

二次元コードから今すぐ参加！



お知らせ

令和7年度版 Sunshine English Course準拠
指導者用 中学校英語教材作成ソフト

kAiryuくん

kAiryuくんは、生成AIを活用してSunshineに対応した教材づくりをサポートする唯一のソフトです。先生方の授業や教材作成を強力にバックアップします。



ラインナップ・定価

使用年数	AI使用回数／月 ※音声生成・検索は無制限でご利用いただけます。	定価(本体価格) スクールライセンス※1
1年間版	テスト・多読・画像生成 各100回／月	22,000円(20,000円)
2年間版	テスト・多読・画像生成 各100回／月	42,900円(39,000円)
3年間版	テスト・多読・画像生成 各100回／月	63,800円(58,000円)

※1 スクールライセンスとは、1つの学校で1ライセンスのご購入で、学校内の先生の端末での利用に限って、無制限にご使いいただけるライセンスです。



開隆堂出版LINE
公式アカウント

友だち募集中！

明日からの授業に役立つ教材、指導案例から専門家による最新の研究報告まで、小中の英語教育に関する幅広い情報を発信しています。



Follow me!

@155fjwpt

小・中学校 英語教育情報誌

Sunshine Letter Connect

非売品

Vol.02

2025年10月28日印刷 2025年10月30日発行 編集兼発行人 岩塚太郎 デザイン ありがとう株式会社
発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
☎ (03) 5684-6121 (営業)・5684-6118 (販売)・5684-6115 (編集) <https://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

北海道支社 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11-4-21 52山京ビル7階 ☎ 011-231-0403
東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-10-7 サンライン第66ビル5階 ☎ 022-742-1213
名古屋支社 〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階 ☎ 052-908-5190
大阪支社 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2-10-16 ☎ 06-6531-5782
九州支社 〒810-0075 福岡県福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎ 092-733-0174